

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2025 年 6 月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI 値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% が DI 値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

全産業の DI は売上額がマイナス 9.6(前期比 7.2 ポイント上昇)、採算はマイナス 24.7(同 6.2 ポイント上昇)、資金繰りはマイナス 13.9(同 4.4 ポイント上昇)となり、昨年の 4-6 月期以来 1 年ぶりに主要 3DI 全てが改善した。

主要 3DI を 1 年前の同時期と比較すると、売上額は同じ水準、採算はマイナス 1.5 ポイント上回って推移しているが、資金繰りだけはマイナス 0.5 ポイントとわずかに下回っていた。

当期の業況を製造業、建設業、小売業、サービス業の 4 分野でみると、今回は 2 年ぶりに全ての分野の主要 3DI が前回からの改善を示した。

経営上の問題点としては、やはりコストを 1 番の問題としてあげる経営者が全体の 3 割を超え多数を占める結果であったが、製造業「原材料価格の上昇」31.7%(対前期 0.9 ポイント減)、建設業「材料単価の上昇」40.0%(同 2.1 ポイント増)、小売業「仕入単価の上昇」30.3%(同 1.1 ポイント減)、サービス業「材料費等の仕入単価の上昇」33.0%(同 1.9 ポイント減)と、建設業以外では前回より指摘する割合が減っている。一方、今回は全ての分野で「従業員の確保難」を指摘する割合が増加していることがわかった。

今回の調査結果では、中小企業全体の景況が前回より改善したことを示している。ただし、最新の日銀短観(2025年6月)では、中小企業の業況判断 DI は、コスト増や人手不足の深刻化に加え、海外経済の減速や米国による関税引き上げへの不安などを背景として、製造業、非製造業ともに「先行き」の見通しが悪化している。DI は 4-6 月期に上昇する傾向があることも踏まえ、今後の中小企業景況の動向には引き続き注意が必要である。

<地域別>

【全国】

2025 年 4-6 月期の全産業の業況判断 DI は、▲15.5(前月差 1.3pt 増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断 DI は、▲20.4(前月差 1.4pt 増)となり、前月から改善した。

建設業の業況判断 DI は、▲13.3(前月差 0.4pt 増)となり、前月から改善した。

商業の業況判断 DI は、▲20.3(前月差 2.5pt 増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断 DI は、▲8.1(前月差 0.7pt 増)となり、前月から改善した。

産業全体において、業況 DI がわずかに上昇。また、各業種においても業況 DI が前月比より改善した。

しかし、2025 年 6 月の日銀短観の調査結果では先行きの見通しが悪化している。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もとでは改善しているが、先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は増加計画にある。

生産は、横ばい圏内で推移している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲15.7 で、全国 DI(▲15.5)と比較すると低く、兵庫県 DI(▲18.7)と比較すると高い。

売上高は、▲15.7 で、全国DI(2.7)、兵庫県DI(▲9.8)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲37.3 で、全国DI(▲20.0)、兵庫県DI(▲23.5)と比較すると、最も低い。

資金繰りは、▲29.4 で全国 DI(▲15.4)・兵庫県 DI(▲11.1)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

・夏は暑さの影響で売上が落ち込む見込みである(ゴルフ練習場)

・暑くなると外出を控えられるため、客足が遠のく(美容室)

(商業 小売、卸売等)

・米不足と高騰により、近所の個人農家から直接米を買い付けているが、今後の値上がりが予測される。

通年の仕入価格より大きく上昇しそうだが、その分を価格転嫁することに不安がある(飲食店)

・大手と比較して、流通が違い過ぎるため価格競争では絶対に勝てない。そのため、同業他社が次々と閉店している。仕入れ単価が高騰しており、キャッシュフローの面から余剰ストックは出来ない(小売店)

(建設業)

・食料品等は、次々と値上げが行なわれているが個人事業主の工賃の値上げはしにくい(建築業)

・建築資材価格の高騰により、価格を理由に新築工事は諦めてリフォーム等への移行が増加(建設業)

(製造業)

・原材料である酒米の価格高騰が懸念される(清酒製造業)

・今後の見通しがつかない。月により売上の変動が大きく予測不能である(鉄工業)

・従業員確保が困難である。高齢化による生産性低下を打破する、若年層雇用は厳しい(食品製造業)

<業種別業況>

全国的な産業全体の景況は、業況 DI がわずかに上昇、採算はわずかに低下し、売上額・資金繰り DI は不変であった。価格転嫁も十分ではなく節約志向による買い控えも影響している。製造業を除き各 DI はほぼプラスで推移したが、2025 年 6 月の日銀短観の調査結果では、先行きの見通しが悪化していることから、今後の動向には引き続き注意が必要である。

<総括コメント>

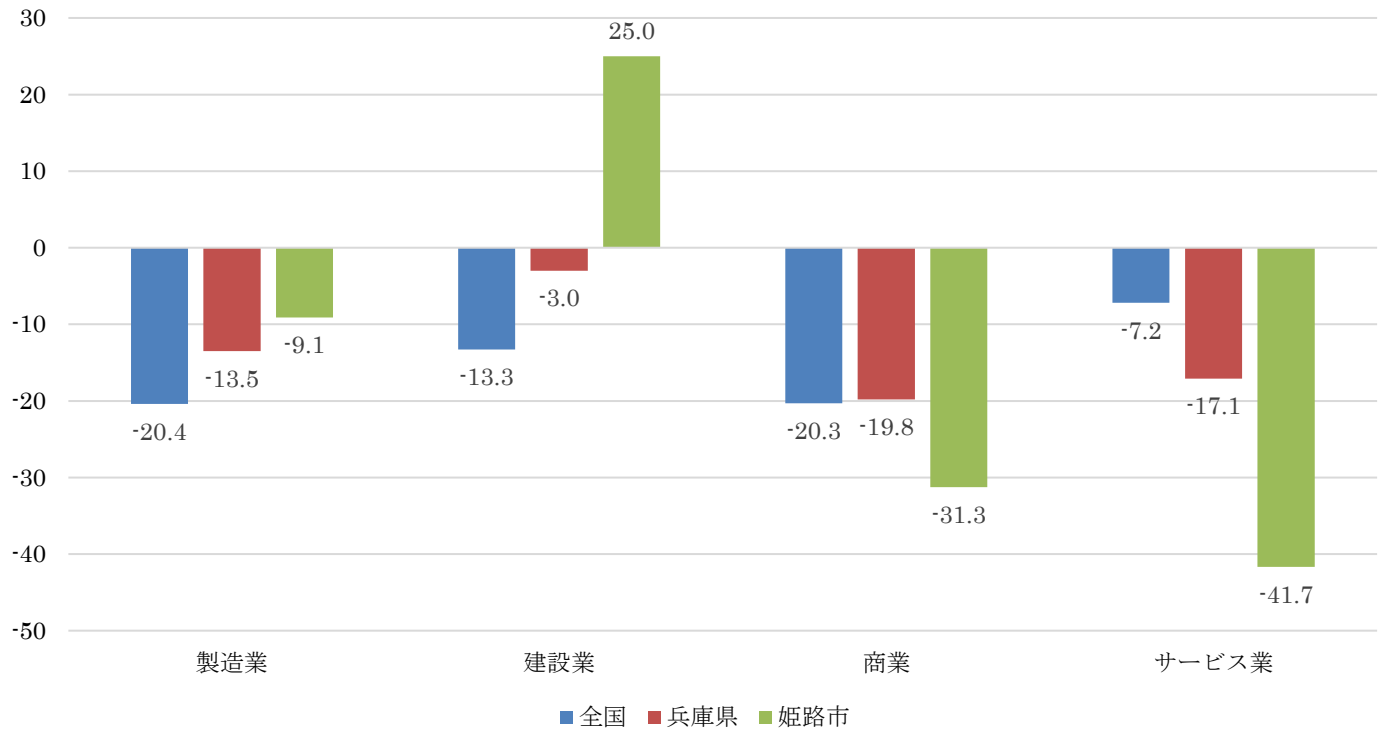
国内景気は、緩やかに回復しているが、米国の通商政策等による不透明感がみられる。

先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクが高まっている。

加えて、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響なども、我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、金融資本市場の変動等の影響に一層注意する必要がある。

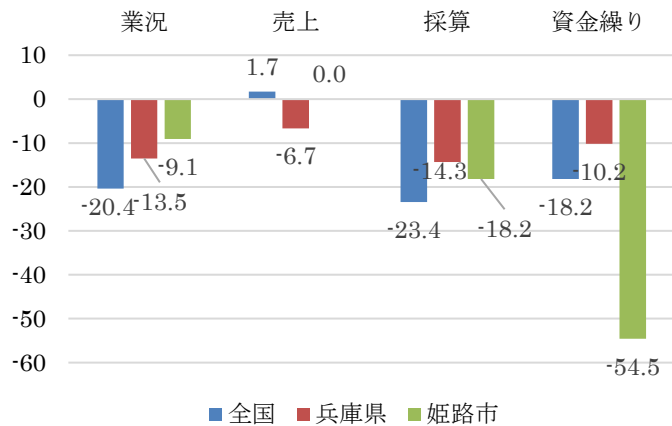
業種別 DI 比較グラフ

業種別 業況DI値比較

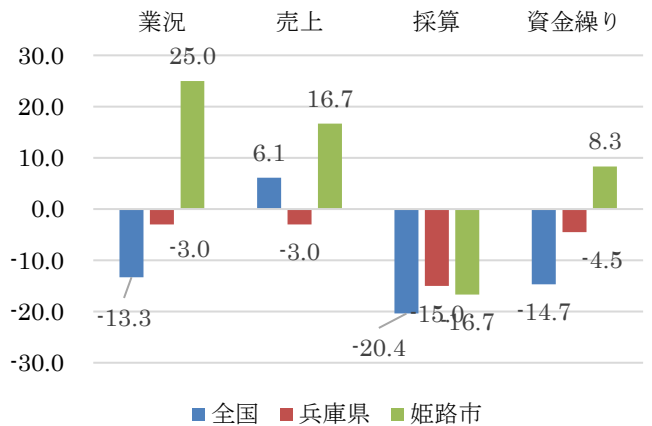


全業種 DI 比較

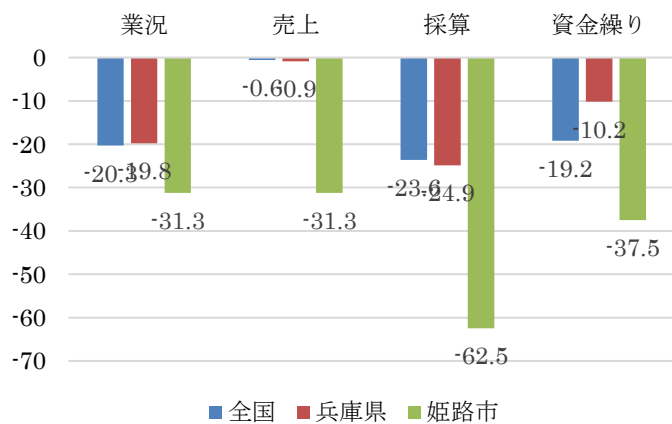
製造業DI値



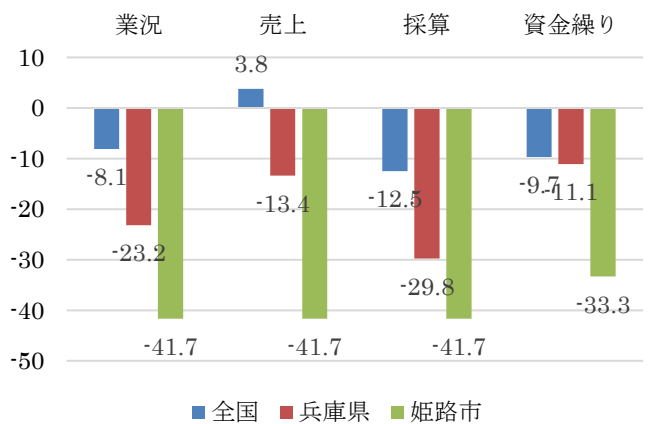
建設業DI値



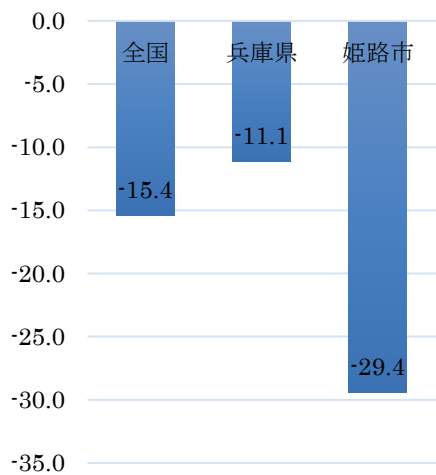
商業DI値



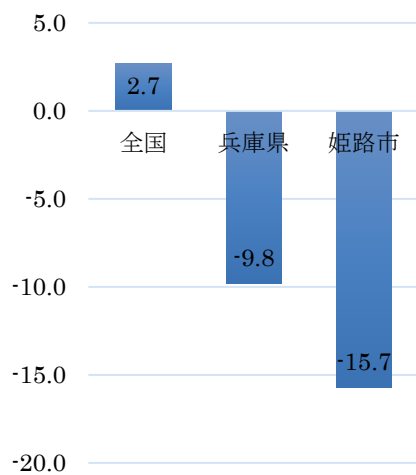
サービス業DI値



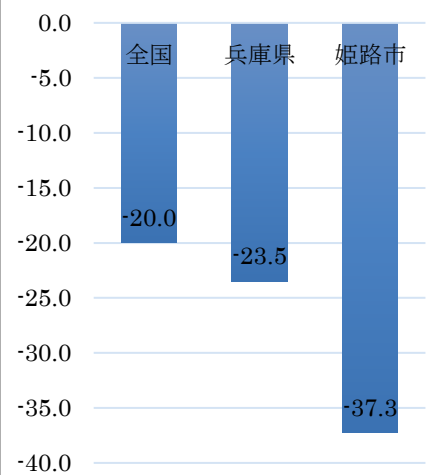
資金繰りD I 値



売上D I 値



採算D I 値



管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍

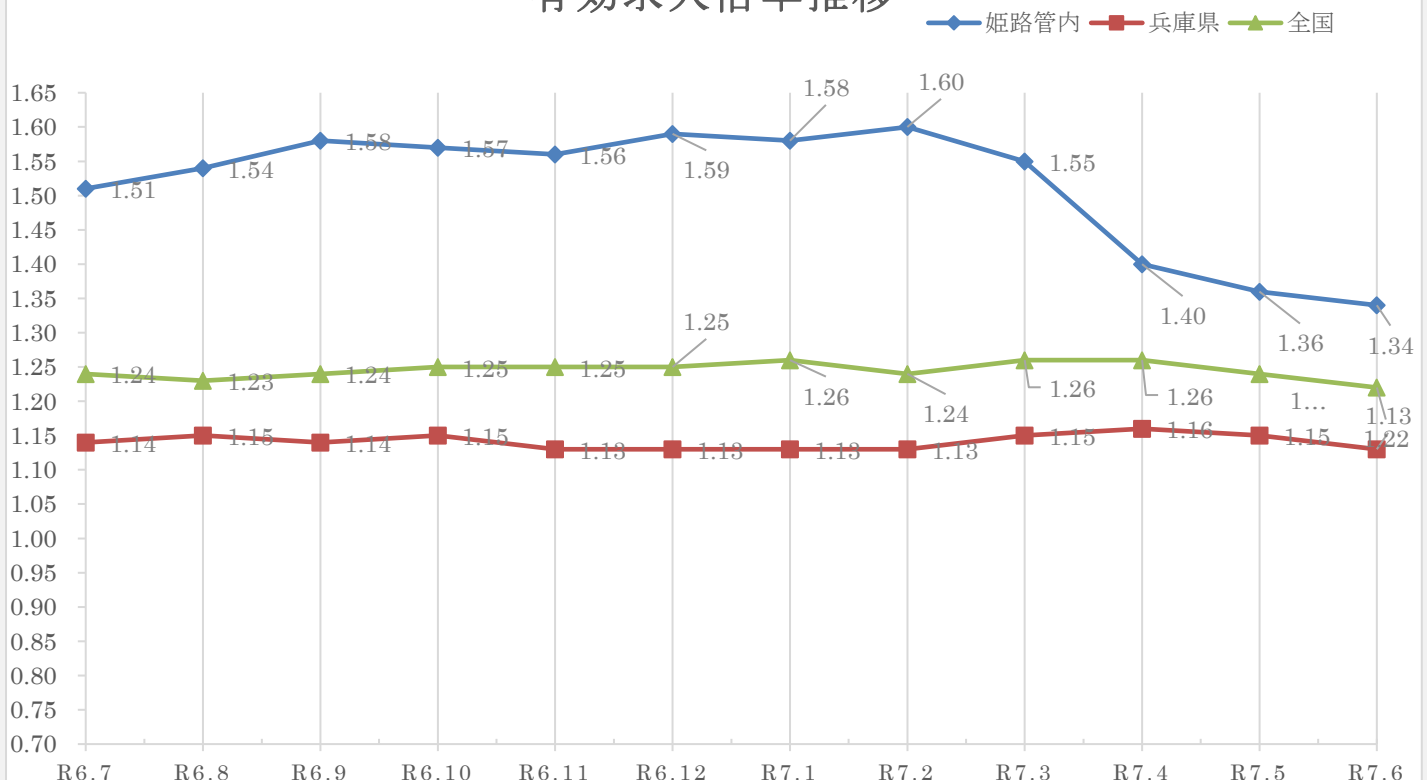
令和 7 年 6 月期の有効求人倍率は、全国 1.22 倍、兵庫県 1.13 倍、姫路管内 1.34 倍となっている。

令和 6 年 7 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。

姫路市は、令和 6 年 7 月頃からは 1.5 倍から 1.6 倍程度で推移しながら横ばい傾向であったが、令和 7 年 4 月より 1.4 倍以下に減少。しかしながら、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

兵庫労働局は、県内の雇用情勢判断を据え置き、「持ち直しに動きの弱さがみられる」との見方を 14 カ月連続で示した。同時に、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との指摘も維持した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較